

自分の思いを英語にする Japa-Lish/Kikuchi Method5

【基本編】

ステップ 1 文の種類－話の種類を選択する17

平叙表現
疑問表現
命令表現
感嘆表現

ステップ 2 基本 5 文型－話の基本骨格を使いこなす25

2-1 話の基本骨格を知る25

話の基本骨格
動詞・助動詞・否定

2-2 話の基本骨格になる構文・語法50

名詞・冠詞・代名詞
動名詞・to 不定詞
名詞節／that 用法・whether, if 用法・疑問詞用法・関係代名詞 what 用法
形容詞・分詞・原形不定詞・SVO+to 不定詞
There 構文・It の用法

ステップ 3 修飾語－話の基本骨格に修飾語を置く86

形容詞・分詞
副詞
比較
to 不定詞・前置詞
形容詞節／関係代名詞・関係副詞

ステップ 4 対等節－単文+対等節で話をつなぐ113

対等節／対等接続詞

ステップ 5 従属節－主節+従属節で話をつなぐ117

副詞節／従属接続詞・分詞構文・仮定法

【応用編】

現実的な英会話スピーキング128

1 はじめに6

2 従来の英会話スピーキング8

2-1 場面集の暗記によるスピーキングでは限界がある
2-2 文法語順の違いによるスピーキングでは混乱する

3 自分の思いを英語にする Japa-Lish10

3-1 日本語のまま「主語+述語動詞・・・」にする方法を発案
3-2 大変わかりやすい「話すための構文・語法」を考案
3-3 本書例文の実践・学習の要領
3-4 本書例文の実践・学習の紹介
NOTE リスニングのポイント

4 「話すための構文・語法」を考案15

4-1 文の構造上分類と文を構成する単語・句・節の関係
4-2 基本 5 文型と修飾語の違い
4-3 話すための構文・語法の種類・構成

自分の思いを英語にする Japa-Lish/Kikuchi Method

1 はじめに

国際語・英語を話すために
私、海外駐在で経験した英会話の「もどかしさ」を克服して
『自分の思いを英語にする Japa-Lish』をまとめ上げました!

その「もどかしさ」とは

私たち日本人は場面集の暗記によるスピーキングが主流ですが、多くのパターン英語を覚えるには・覚えておくにはどうしても限界があり、現実には「こういう時、英語でどう言えば良かったかな?」との実状で、話はすぐに終わり続きません。一方、月日が経ち・歳をとり覚えたもの全てを忘れたと、英会話を諦めてしまう人もいます。

だからこそ、構文・語法を身に付けて、自分の思いを英語にして話をするしかありません!

例えば・・・

私は 毎日 詳細に 英文法を 彼らに 教えなければならない
I must teach them English grammar in detail every day.

このように、自分の思い「主語・・・述語動詞」を英語「主語+述語動詞・・・」にする時に、文法語順の違いからどうしても混乱が生じます。

結果、話の途中でやめたり・話を最初からあきらめたりして、話が続きません。

また、普段の日本語会話では、主語を省略したり、最後の述語動詞を言わないままに話が終わったりで、自分の思いがはっきりとイメージできていません。

さらに、構文・語法が苦手な自分の思いを英語にするイメージもできていません。

結果、話は 2～3 の英単語だけになってしまい、相手に話が通じません。

では、自分の思いを英語にする Japa-Lish とは

まずは、日本語のまま「主語+述語動詞・・・」にする方法を発案しました

次の Japa-Lish を右から左に読んでみましょう
私は 教えなければならない 彼らに 英文法を 詳細に 毎日 ←
I must teach them English grammar in detail every day.

**すでに「主語+述語動詞・・・」になっていますので、
自分の思いが明確になり、混乱なく英語にできます!**

日本語の英文法語順、それが Japa-Lish です。
日本語の助詞は英文法語順をわかりやすくすると共に、
Japa-Lish は日本語と英語の語順を同じにするツールになります!

次に、大変わかりやすい「話すための構文・語法」を考案しました

本書例文は、英文法の主要な部分を
「話すための構文・語法／ステップ 1～5」として考案しまとめ上げました!

- ステップ 1 文の種類では、話の種類を選択する
- ステップ 2 基本 5 文型では、話の基本骨格を使いこなす
- ステップ 3 修飾語では、話の基本骨格に修飾語を置く
- ステップ 4 対等節では、単文+対等節として話をつなぐ
- ステップ 5 従属節では、主節+従属節として話をつなぐ

**自己表現力・英文法構文力を身に付け
英語にして話を続ける・相手に通じる英語にする
Japa-Lish による「現実的なスピーキング」を身に付けます!**

2 従来の英会話スピーキング

2-1 場面集の暗記によるスピーキングでは限界がある

例えば海外旅行、入国審査・タクシー・ホテル・買い物・食事など、場面集の各文例をいかに覚えているかが決め手です。

覚えたパターン英語が、相手の話に合えばスピーディーに話ができますが・・・
覚えたパターン英語が相手の話に合わないとき、また問い合わせ・トラブルの場合、自分の思いを英語にして話をするしかありません。

海外展開企業で業務英会話に携わる方々は、それぞれの分野での企業専門用語と共に、日常業務に使われるパターン英語を覚える必要があります。

例えば航空会社、パイロットとコントロールタワー間の通常交信、客室乗務員のアナウンスや外国人へのサービス業務、そして地上係員の外国人へのチェックイン業務など、一度覚えてしまえば連続して使える状況にあります・・・

日常業務中に発生する数多くの問い合わせ・トラブル対応は、パターン英語ではこなしきれないため、自分の思いを英語にして話をするしかありません。

ビジネス上の工場見学・プレゼンテーション・契約交渉などにおいて、外国人による数多くの細かい質問・議論・交渉など、多くはパターン英語で対応できません。その時々において話の内容が違いますので、それぞれの場に応じて自分の思いを英語にして話をするしかありません。

私たち日本人は場面集の暗記によるスピーキングが主流ですが、多くの文例を覚えるには・覚えておくにはどうしても限界があり、現実には「こういう時、英語でどう言えば良かったかな?」との実状で、話はすぐに終わり続きません。

一方、月日が経ち・歳をとり覚えたもの全てを忘れてと、英会話を諦めてしまう人もいます。

だからこそ、構文・語法を身に付けて、自分の思いを英語にして話をするしかありません!

2-2 文法語順の違いによるスピーキングでは混乱する

英語は「主語+述語動詞・・・」から始まる明確な言語

I must teach them English grammar in detail every day.

主語・述語動詞で始まる言語は、自分の言いたいことを先に言わなくてはなりません。

日本語は述語動詞が最後に来るだけで、他の文節は助詞のおかげで自由

私は 毎日 詳細に 英文法を 彼らに 教えなければならない

英文法を 彼らに 私は 毎日 詳細に 教えています

彼らに 私は 毎日 詳細に 英文法を 教えてきました

私たち日本人にとって英語「主語+述語動詞・・・」と日本語「主語・・・述語動詞」の文法語順の違いがあるため、スピーキング・リスニングにおいてどうしても混乱が生じます。

ちなみに、フランス語は英文法語順とほぼ同じですので、フランス人にとって英単語さえ知っていれば、混乱なく話をする・話を聞くことができます。

例えば・・・

私は 毎日 詳細に 英文法を 彼らに 教えなければならない

I must teach them English grammar in detail every day.

このように、自分の思い「主語・・・述語動詞」を英語「主語+述語動詞・・・」にする時に、文法語順の違いからどうしても混乱が生じます。

結果、話の途中でやめたり・話を最初からあきらめたりして、話が続きません。

また、普段の日本語会話では、主語を省略したり、最後の述語動詞を言わないままに話が終わったりで、自分の思いがはっきりとイメージできていません。

さらに、構文・語法が苦手な自分の思いを英語にするイメージもできていません。

結果、話は2～3の英単語だけになってしまい、相手に話が通じません。

3 自分の思いを英語にする Japa-Lish

3-1 日本語のまま「主語+述語動詞・・・」にする方法を発案

次の Japa-Lish を右から左に読んでみましょう
私は 教えなければならない 彼らに 英文法を 詳細に 毎日←
I must teach them English grammar in detail every day.

**すでに「主語+述語動詞・・・」になっていますので、
自分の思いが明確になり、混乱なく英語にできます!**

日本語の英文法語順、それが Japa-Lish です。

日本語の助詞は英文法語順をわかりやすくすると共に、
Japa-Lish は日本語と英語の語順を同じにするツールになります!

英会話とは「相手の英語の話を日本語で理解する・自分の思いを英語にして相手に話をする」というやりとりになります。

物おじせずに少し時間を掛けてでも、自分の思いを右から左にイメージすることが、
英語にして話をするコツでもあり基本にもなります!

では、次をトライしてみましょう

サンフランシスコは でした 素晴らしい街←
San Francisco was a wonderful city.

とにかく、私は 魅了されました その街並みに←
Anyway I was fascinated by the townscape.

それは でした ヨーロッパの雰囲気 アメリカというより←
It was a European atmosphere rather than America.

だから、花が 絶えません 一年中を通して←
So flowers do not die out throughout the year.

それは です 大変な混雑ぶり 夜中でさえも←
It is a very crowded even in the middle of the night.

3-2 大変わかりやすい「話すための構文・語法」を考案

本書例文は、英文法の主要な部分を
「話すための構文・語法／ステップ 1～5」として考案しまとめ上げました!

ステップ 1 文の種類では、話の種類を選択する

ステップ 2 基本 5 文型では、話の基本骨格を使いこなす

ステップ 3 修飾語では、話の基本骨格に修飾語を置く

ステップ 4 対等節では、単文+対等節として話をつなぐ

ステップ 5 従属節では、主節+従属節として話をつなぐ

**自己表現力・英文法構文力を身に付け
英語にして話を続ける・相手に通じる英語にする
Japa-Lish による「現実的なスピーキング」を身に付けます!**

私たちは生まれた時から培った日本語に長け、日本語の応用が利く母国語ネイティブであり、その日本語は外国語を学ぶ際の原点になります!

国際語・英語を話すために

日本人として信頼を得るには、スピーディーな会話は必要なく
物おじせずに少し時間を掛けてでも、自分の思いを明確にした上で
混乱なく英語にして話を続ける・相手に通じる英語にする
「現実的な英会話 Japa-Lish」を身に付けます!

3-3 本書例文の実践・学習の要領

本書例文は、次のように「Japa-Lish・英語・構文・語法にかかわる事項」で構成しています。

私は 教えなければならない **彼らに 英文法を** 詳細に 毎日←
I must teach **them English grammar** in detail every day.
 S+V+O+O／主語+動詞+2つの目的語(誰に～何を～)

Japa-Lish はスペースを置き直訳表現を使っていますので、引き出す英単語が大変イメージしやすいと共に、その直訳表現と英単語が同じ位置にあるため英単語が覚えやすい、私たち日本人にとって大変わかりやすい「例文スタイル」です!

【 基本編 】

基本編は「話すための構文・語法／ステップ 1～5」の実践・学習です。

実践は、Japa-Lish を←矢印に従い、まず主語を読み、次に他の文節を右から左に読みながら頭の中に置き、つど英単語を口に出して話をします。

学習は、赤字の**文節と英単語**の構文・語法にかかわる事項を理解します。

**実践に慣れると Japa-Lish がすぐに作れるようになるため
最初から Japa-Lish をイメージしながら
つど英単語を口に出して話をするようになります!**

【 応用編 】

応用編は Japa-Lish を頭に置きながらつど英単語を口に出して話をします。すなわち、自分の思いとして話を作り英語にするスピーキングの実践です。

3-4 本書例文の実践・学習の紹介

悠太は **来ないかもしれない** ここに 今日←
Yuta **may not come** here today.
 否定文／助動詞の否定

できますか←2 私は ～借りる レンタカーを この近くで←1
Can I borrow a rent-a-car near here?
 一般疑問文／助動詞の疑問

何を←1 しましたか あなたは ～食べる 昨日←2
What did you eat yesterday?
 疑問詞疑問文／疑問詞が目的語-過去形

エリは←1 ～話しました 私に
ということ←3 悠太が ～会った その少女に 昨日←2
Eri told me **that** Yuta had seen that girl yesterday.
 従属節／名詞節の that 用法-過去形・過去完了形

(それは) です やさしい **～追加するのは** 絵を 文書に←
It is easy **to add** pictures to the document.
 It~to 構文／～追加するのは to add が真主語

私は 行くつもりです オーストラリアに **～目指すために** プロゴルファーを←
I will go to Australia **to aim** for a professional golfer.
 修飾語／to 不定詞用法-未来形

マリは ～した いくつかの間違いを←1、
しかし←2 悠太は ～笑わなかった 彼女を←3
Mari made some mistakes, **but** Yuta didn't laugh at her.
 対等節／対等接続詞 but-過去形

ので←2 あなたは 疲れている 今←1、
あなたは ～取るほうが良い 少しの休息を←3
As you are tired now, you had better take a little rest.
 副詞節／従属接続詞 As

NOTE リスニングのポイント

英語「主語+述語動詞…」と日本語「主語…述語動詞」の文法語順の違いが、リスニングを大変難しくしていますので、集中して英単語を頭の中に並べ置くことが必要です。

リスニング訓練は、とにかく頭の中をフル回転し、単語一つ一つを聞き分けながら、一連の文を Japa-Lish により理解していくという段階が必要です。

ステップ 1 単語の頭出しを確実に!

I have worked hard in order to save money since I left school.

当初、リスニングが切れ間のない連続した音に聞こえます。

I▶have▶worked▶hard▶in▶order▶to▶save▶money▶since▶I▶left▶school.

音の切れ間をはっきりつかみ、音の切れ間の次に来る単語を聞き分けます。

単語の頭出しをすることがポイントです。

ステップ 2 単語を並べ置く動きをとにかく速く!

I have worked hard in order to save money since I left school.

単語の頭出しをしながら、単語を並べ置く動きをとにかく速くすることで、

瞬時に単語が聞けるようになります。

単語を板に張り付けるように並べ置くことがポイントです。

ステップ 3 日本語訳イメージを Japa-Lish で理解する

I have worked hard in order to save money since I left school.

私は 働いている 一生懸命に お金を貯めるために 以来 私が 出た 学校を

単語の頭出しをしながら、さらに速く単語を板に張り付けるように並べ置くことで、リスニングに余裕が持てるようになります。

日本語訳イメージができるようになることがポイントです!

日本語訳イメージを日本語順に置き換えて理解しようとするとう混乱が生じます。

リスニングは、日本語訳イメージを Japa-Lish で理解することがポイントです!

リスニングでは、Japa-Lish による日本語訳イメージと共に
スピーキングの実践・学習で身に付けた構文・語法がわかることで
より理解力が向上します!

4 「話すための構文・語法」を考案

4-1 文の構造上分類と文を構成する単語・句・節の関係

単文／単語と句からなり、主語+動詞が一組だけの文

単語は最小単位の語です。

名詞、代名詞、動詞、助動詞、形容詞、分詞、原形不定詞、副詞

句は 2 単語以上の集まりで、名詞句・形容詞句・副詞句があります。

名詞句／動名詞、to 不定詞、疑問詞+to 不定詞

形容詞句／to 不定詞、前置詞

副詞句／to 不定詞、前置詞

重文／主語+動詞を含む節からなり、対等接続詞で結ばれた単文+対等節で、
二つの文が対等の関係

対等接続詞／and, or, but, for, so, など

複文／主語+動詞を含む節からなり、従属接続詞で結ばれた主節+従属節で、
従属節が主節を修飾して主節の内容が中心の文

複文の従属節は名詞節・形容詞節・副詞節があります。

名詞節／that 用法、whether, if 用法、

疑問詞用法、関係代名詞 what 用法

形容詞節／関係代名詞 who, which, that、

関係副詞 when, where, why, how

副詞節／従属接続詞、分詞構文、仮定法

4-2 基本 5 文型と修飾語の違い

基本 5 文型

文の要素

主語(S: Subject)	「～は・が・も」など文の主題を示します
述語動詞(V: Verb)	「～である・する」と説明します
目的語(O: Object)	「～を・に」などにあたる語です
補語(C: Complement)	主語・目的語について説明をする語です

基本 5 文型は文の要素からなり、主語の次に動詞が置かれ、動詞の種類によって、目的語または補語の位置が 5 つの基本文型に分類されます。

第 1 文型/S+V	主語+動詞
第 2 文型/S+V+C	主語+動詞+主語を説明する補語
第 3 文型/S+V+O	主語+動詞+動詞の対象となる目的語
第 4 文型/S+V+O+O	主語+動詞+2 つの目的語/誰に～何を～
第 5 文型/S+V+O+C	主語+動詞+目的語+目的語を説明する補語

基本 5 文型になる構文・語法は次のものです。

単語	/ 動詞・助動詞・否定、名詞・代名詞、形容詞・分詞・原形不定詞
名詞句	/ 動名詞・to 不定詞、疑問詞+to 不定詞、SVO+to 不定詞
名詞節	/ that 用法、whether, if 用法、疑問詞用法、関係代名詞 what 用法
その他	/ There 構文、It の用法

修飾語

修飾語は、文の要素ではないので主語・目的語・補語にはなりません。

修飾語の構文・語法は次のものですが、それぞれが基本 5 文型の定められた位置に置かれ、文の要素を修飾して説明を加えます。

単語	/ 形容詞・分詞、副詞、比較
形容詞句	/ to 不定詞、前置詞
副詞句	/ to 不定詞、前置詞
形容詞節	/ 関係代名詞 who, which, that
関係副詞	when, where, why, how

4-3 話すための構文・語法の種類・構成

ステップ 1 文の種類—話の種類を選択する

平叙表現
疑問表現
命令表現
感嘆表現

ステップ 2 基本 5 文型—話の基本骨格を使いこなす

2-1 話の基本骨格を知る

話の基本骨格
動詞・助動詞・否定

2-2 話の基本骨格になる構文・語法

名詞・冠詞・代名詞
動名詞・to 不定詞
名詞節 / that 用法・whether, if 用法・疑問詞用法・関係代名詞 what 用法
形容詞・分詞・原形不定詞・SVO+to 不定詞
There 構文・It の用法

ステップ 3 修飾語—話の基本骨格に修飾語を置く

形容詞・分詞
副詞
比較
to 不定詞・前置詞
形容詞節 / 関係代名詞・関係副詞

ステップ 4 対等節—単文+対等節で話をつなぐ

対等節 / 対等接続詞

ステップ 5 従属節—主節+従属節で話をつなぐ

(名詞節 / that 用法、whether, if 用法、疑問詞用法、関係代名詞 what 用法)
(形容詞節 / 関係代名詞、関係副詞)
副詞節 / 従属接続詞・分詞構文・仮定法